

工 | 大 | 広 | 報

2014年1月31日発行(年4回発行)



50th ANNIVERSARY TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
2014年、東北工業大学は創立50周年を迎えます。



卒業研修に取り組む学生
研究に取り組む大学院生

みやぎサイエンスフェスタ参加

岩崎俊一理事長
文化勲章受章に続き、米国版ノーベル賞の
「ベンジャミン・フランクリン・メダル」
受賞決定!!

情報通信工学科 木戸 博研究室 無響室における音声資料の収録



創造から統合へー仙台からの発進
東北工業大学

卒業研修に取り組む学生

工学部
知能エレクトロニクス学科



両腕運動を用いた歌声合成システムの研究

やまぐち さとこ
山口 聡子

知能エレクトロニクス学科 4年

卒業研修では、両腕の運動を位置センサーで計測し、音高や音韻などをリアルタイムで制御する歌声の合成システムを研究しています。この研究では、センサー処理、デジタルフィルタ、音声合成、プログラミングなど幅広い知識が必要ですので、研修をはじめた当初は学ぶことが多く苦労しました。でも文献などから学んだ知識を、実際のシステムに組み込むことで、これまで分かっていなかったことが分かるようになったと感じています。またオープンキャンパスのデモンストレーションでは、学外の来場者の方からも好評をいただき、大変励みになりました。残された時間は限られていますが、より良いシステムを目指して全力を尽くしたいと考えています。



両腕を用いた歌声合成のデモ

工学部
建築学科



「人と人の距離、音が伝えてくれるもの」

かりの みほ
狩野 未帆

建築学科 4年

卒業設計では人と人の距離について考え、その間に起こりうる現象やその可能性について考えています。大勢の人混みの中で人間はなぜ人を避けて歩くことができるのか、その短い距離と一瞬の時間に何が存在するのか。隣の人の顔も認識できない現代の住宅の中で、物理的距離は短くとも精神的距離がなぜそれほど離れてしまうのか。そういった日常生活で当たり前のことから現代の住宅の問題について幅広く考えています。私は卒業設計において、目で距離を計るだけでなく、音で距離を計ることのできる建築を考えています。今まで一度も挑戦したことがないサウンドスケープという分野ですが、卒業後は音響建築の分野へ進むため、積極的に取り組みたいと思います。



模型で検討

ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科



3DCGを用いたアニメーションの制作

さとう たくや
佐藤 拓也

クリエイティブデザイン学科 4年

3年次後期から取り組んでいる3DCGを用いた技術や表現方法を、アニメーションとして形にしています。コンピュータグラフィックスを使用したアニメーション制作は、すべてを自分自身でコントロールできる表現手法です。ストーリー構築から、モデリング、演技、ライティング、カメラワーク、編集、音入れまで、制作する分野は多岐にわたります。そのため、全体像を見据えながら制作することはとても難しいのですが、逆に言うとうれしいと感じている部分です。現在、制作の佳境に入っています。完成後は研究室のWEBサイト (http://www.shinolab.com/g_works.html) に掲載する予定ですので、ぜひご覧ください。



コンピュータを用いたアニメーション制作

卒業研修学内発表 日程

発表場所	発表日	発表学科
八木山キャンパス 工学部	2月26日(水)	知能エレクトロニクス学科
	2月27日(木)	情報通信工学科
	2月12日(水)、2月13日(木)	建築学科
	2月10日(月)	建設システム工学科
	2月17日(月)	環境情報工学科
長町キャンパス ライフデザイン学部	1月27日(月)～29日(水)	クリエイティブデザイン学科
	2月7日(金)、2月10日(月)	安全安心生活デザイン学科
	1月27日(月)、28日(火)	経営コミュニケーション学科

研究に取り組む大学院生

大学院
通信工学専攻



ノア衛星画像に対するテクスチャ特徴を用いた海氷検出方法の研究

まつもと あさひ
松本 旭

通信工学専攻 博士(前期)課程2年

私はノア衛星画像を用いた海氷検出方法の研究を行っています。検出対象である海氷は、氷晶雲とよばれる温度が非常に低い雲と性質が非常に似ています。そのため、海氷の検出では氷晶雲と海氷をうまく区別することが重要です。これまでの研究では、統計量であるテクスチャ特徴と連続した複数枚の衛星画像を用いた時系列解析処理を適用し、検出していました。現在は、一枚の衛星画像から海氷を検出する方法を確立するために、テクスチャ特徴を用いる方法を研究しています。研究の成果は、論文誌への投稿や、学会で発表しています。論文投稿や学会発表は、日々の研究の積み重ねが重要ですので、一日一成果を目指して頑張っています。



研究室での発表

大学院
土木工学専攻



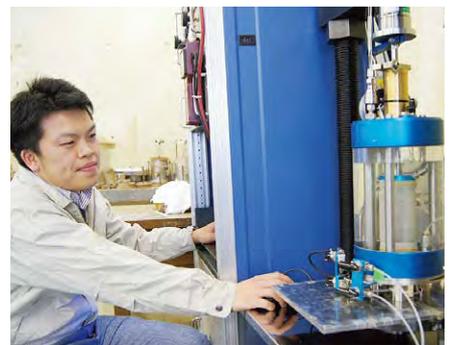
密度が異なる粒状物質混合土の粒度試験方法と密度試験方法に関する研究

ちば ゆうたろう
千葉 祐太郎

土木工学専攻 博士(前期)課程2年

東日本大震災による影響によって、震災ガレキや津波堆積物が大量に発生しています。それら処理や有効利用(リサイクル)をするには、基準となる特性を評価する必要があります。私は、これらの評価方法の一つである、地盤工学の基本的な試験方法の研究を行っています。テーマを「密度が異なる粒状物質混合土の粒度試験方法と密度試験方法に関する研究」として、土木学会や地盤工学会などで発表しています。

大学院での研究・発表を通じて、学んだことは数多くありますがやはり、私自身の一番の財産は、大学内・外の多くの人たちと出会ったことです。在学生の皆さんには、ぜひ、大学内だけでなく、外の世界(社会)に目を向けた活動してほしいと思います。



軟弱地盤の力学的性質を三次元圧縮試験機を利用して解析

大学院
環境情報工学専攻



人工湿地におけるヨシ生育特性の研究

おかぬま みか
岡沼 美香

環境情報工学専攻 博士(前期)課程2年

私は、産業廃棄物処分場から排出される埋立浸出水を、人工湿地を用いて浄化する研究をしています。特に湿地に植栽されているヨシという植物の生育特性を明らかにする研究に取り組んでいます。研究では、月2回産業廃棄物処分場の現場に行き、1,000本近くあるヨシの稈数と稈長の測定と塩分濃度の測定を行っています。この浄化法の研究がさらに進めば、浸出水処理施設の維持コスト、消費エネルギーの削減が大きく期待され、さらに光合成によるCO₂の削減、生物の生育の場の提供など、地球温暖化をはじめとした環境問題にも大きく貢献できると考えています。現在は学会発表や修士論文作成など忙しい毎日ですが、充実した日々を過ごしています。



ヨシの生育調査

卒業研修学外発表 日程

東北工業大学一番町ロビー ギャラリー(1階)	環境情報工学科 ……2月21日(金)~26日(水) 経営コミュニケーション学科 ……2月17日(月)~19日(水)
せんだいメディアテーク (5階)	建築学科 ……2月28日(金)~3月5日(水) クリエイティブデザイン学科 ……2月14日(金)~19日(水) 安全安心生活デザイン学科 2月28日(金)~3月5日(水)

大学院・専攻発表会 日程

八木山キャンパス	[工学研究科] 電子工学専攻 ……2月21日(金) 通信工学専攻 ……2月26日(水) 建築学専攻(審査会) 2月25日(火) 土木工学専攻 ……2月12日(水) 環境情報工学専攻 ……2月21日(金)
長町キャンパス	[ライフデザイン学研究科] デザイン工学専攻 ……2月21日(金)

本格的な就職活動時期を迎える3年生・大学院博士(前期)課程1年生へ

ちば のりゆき
千葉 則行 就職部長/都市マネジメント学科 教授

3年生の就職活動が昨年12月1日(日)をもってスタートしました。もうすでに、志望する企業が明確となり、4月以降の選考(就職試験)に向けて準備している学生も多いことと思います。社会人として質の高い生活を送るには自分に合った職に就くことも重要です。それにはチャンスを逃さないこと、また就職活動の基本(自己分析、企業研究など)を早めによりしっかりとしておくことが大切です。

今後、企業説明会が目白押しに開催されますが、企業の担当者の方と直接会って生の声を聞く、かつマッチング度を高める場でもあります。積極的に活用するように努めてください。

以下は各学科の就職担当教員からの4年生の就職状況と、3年生・大学院博士(前期)課程1年生へのアドバイスです。

工学部
知能エレクトロニクス学科



早期の企業研究を

あべ としみ
阿部 俊三
知能エレクトロニクス学科 教授

本学科では、これまで内定率100%を目指した就職支援に取り組み実現してきました。今年度も極めて好調で、未内定者は数人となっています。就職支援は、大手企業あるいはそのグループ企業に照準を合わせて行っており、その成果が実りつつあります。

学部3年生・大学院博士(前期)課程1年生諸君は、就きたい業種・職種を早期に見定め、企業研究を行ってください。われわれ教職員一同一丸となり皆さんをバックアップします。保護者の皆さまには、ご子女と機会あるごとに将来についての話し合いの場をもっていただければ幸いです。

工学部
情報通信工学科



自分の実力に見合った就職先の選択を

のぐち かずひろ
野口 一博
情報通信工学科 教授

本年度の学科の内定率は昨年並ですが、全国的な就職環境の向上を考えると若干厳しい状況と考えられます。企業は即戦力の獲得に重点を置いており、特に社員個々の実力が業績に直結するIT企業でその傾向が強くなっています。従って、有名企業ばかり受験しても、相応の実力がある学生でなければ内定獲得は困難です。学生諸君には、十分な業界研究と試験対策を行った上で、諸君を受け入れる企業を早く見つけて欲しいと思います。

工学部
建築学科



就活本番モードに

さいち まさよし
最知 正芳
建築学科 教授

建築学科4年生の就職活動は、好調のうちに終息を迎えました。一方、3年生からは、「まだ先だと思っていたのに、その時が来てしまった」というような、戸惑いの気持ちが感じられます。でも、もう本番です。自分のやりたいことを見極め、自分に合った職に就けるよう、就活本番モードに入りましょう。今の自分ではなく、人生の半ば、40歳の自分をイメージし、その時の自分は何をし、どうあるべきなのかを考えながら活動してください。

工学部
都市マネジメント学科



建設業界は今後も好調!

きくち あきら
菊池 輝
都市マネジメント学科 准教授

本学科の就職状況は毎年好調です。震災復旧復興事業や東京オリンピック誘致の影響でしょうか? あまり知られていないのですが、実は建設業界は日本の全雇用の約9%を担っています。建設業界は私たちの生活基盤に欠かせない業界であり、そのことが安定した就職に繋がっています。また25年度は公務員試験受験者の学科内支援を強化してきました。その甲斐あってか、国家公務員試験一般職をはじめ昨年よりも合格者が大きく増えました。

工学部
環境エネルギー学科



学科の就職状況と取り組みについて

こいわい ひろのり
小祝 慶紀
環境エネルギー学科 准教授

環境情報工学科の4年生・大学院博士(前期)課程2年生は、各自の頑張り希望の業種や職種に多くの学生が内定を決めています。環境情報工学科の就職内定先は、エネルギー関連企業・設備系・環境関連企業の技術職や、道路舗装業の事務系総合職やサービス業の営業など多岐にわたっています。

3年生・大学院博士(前期)課程1年生については、昨年11月の出陣式で4年生や伊達武将隊からの激励を受け、現在、就職活動を活発に行っています。学科では、「とことん就活塾」を開講し、就活のバックアップをしています。各学生の希望がかなうよう、学科としても全力でサポートをしていきます。

ライフデザイン学部
クリエイティブデザイン学科



「デザイン」を仕事に活かす

さかた ゆうじ
坂手 勇次
クリエイティブデザイン学科 教授

デザインの業界は通年採用、都度採用となる場合もことから、他の業界に比べて春新卒の就職率が低くなる傾向がありますが、本学科はデザイン系大学のなかではトップクラスの就職率になっています(本学調べ)。皆さんが学んだ「デザイン」はさまざまな分野の仕事に活かされます。分野を狭めずに、自らの可能性を拡げてもらえたらと思います。志高く自分の未来を見つけてください。応援します。支援します。ともに頑張りましょう。



3年生の諸君へ

みやぎ みつのぶ
宮城 光信 学長

就職の準備がいよいよ開始される時期。これまでにあなたが体験したこと、学んだこと、考えたことが大学の目からではなく、総合的に社会、企業の目を通して問われる時です。今あるあなた自身を客観的に分析し、必ず持っているあなたの良い点、特長を確認してください。そして、それをどのようにしたら理解されるかを考え、積極的にアピールする力を養ってください。あなたの活躍を期待します。



呼吸するように

おおすま まさひろ
大沼 正寛
安全安心生活デザイン学科 准教授

就職活動が本格化すると、目前の学業・研修をおろそかにする人がいます。しかし残念ながら、日々の学習を怠った人ほど内定獲得が遅いのが実情です。就職活動は自己PRの場ですから、いわば呼吸。それに対し、研修その他の学業は吸気であり、たくさん新鮮空気を吸ってれば顔は晴れやかになり、良い自己PRにつながります。これから本格始動するなかで、日々の学業と就職活動にメリハリをつけて取り組まれることを期待します。



目標設定と粘り強さ

にのせ ゆり
二瀬 由理
経営コミュニケーション学科 准教授

今年度本学科では、現時点で昨年以上に多くの学生がさまざまな企業より内定をいただいています。これは、一人ひとりが真摯に自分を見つめ直し、諦めずに就職活動を続けた成果の表れだと思えます。就職活動に必要なことは、「自分自身の目標を明確にすること」と「粘り強く活動すること」です。目標があれば頑張る力が湧き、自分を見失わずに活動を続けられます。本学科では希望者を対象に「SPI実践講座」を開講しています。与えられたチャンスを逃さず、自分の将来を切り開いてください。

キャリアサポートプログラム

本学では、早い時期から学生一人ひとりが卒業後のキャリアについて考え、希望と自信を持って就職活動に臨むことができるように1年生から始まる支援プログラムを行っております。下記に主な取り組みを紹介しましたので、早期の就職活動にお役立てください。

1年生	就職ガイダンス 入学時から、大学での学びの意義・職業意識の醸成を促します	インターンシップ 主に夏季休業中を利用して、企業での就業体験を通して自己の職業適性など、職業選択について考える機会とします。	就職活動なんでも相談（全学生対象） 学外から専門のキャリアアドバイザーを招き、就職活動に関するあらゆる相談のための窓口を設置しています。		
	適性検査① 自分自身の性格や興味を理解し、将来の目標設定などを自覚します。				
2年生	就職ガイダンス 自分の適性・能力に応じた進路を考えることを促します。			就職試験対策講座（2・3年生・大学院1年生対象） 夏季・春季休業を利用して行う民間就職試験（専門・常識適性）、公務員試験対策の集中講座を開催します。	
	適性検査② これまでの学生生活を振り返り、改善すべき点や進路目標を考えます。				
3年生・大学院1年生	就職ガイダンス 本格的な就職活動のスタートに当たり、具体的な就職活動の方法について指導します。				就職試験対策講座（2・3年生・大学院1年生対象） 夏季・春季休業を利用して行う民間就職試験（専門・常識適性）、公務員試験対策の集中講座を開催します。
	適性検査③ ※大学院対象外 職業についての理解を深め、自己PRや企業研究のきっかけづくりに役立てる検査を実施します。				
	就職講習会 就職活動を進める心構え・マナーや業界・企業研究、自己分析、エントリーシート、面接などについて解説・説明します。				
	就職業界・企業研究会 企業から講師を招き、就職活動を始めるに当たっての心構えやそれぞれの業界・企業が求める人材などについてお話しいただく研究会を実施します。				
就職模擬面接 外部講師を招き、面接の実技指導を実施します。	就職試験対策講座（2・3年生・大学院1年生対象） 夏季・春季休業を利用して行う民間就職試験（専門・常識適性）、公務員試験対策の集中講座を開催します。				
SPI・エントリーシート対策講座 多くの企業の採用試験で利用されているSPI試験対策講座と、書類選考で重要なエントリーシート対策講座を併せて実施します。					
4年生・大学院2年生	合同企業説明会 本学主催による合同企業説明会を実施します。	就職試験対策講座（2・3年生・大学院1年生対象） 夏季・春季休業を利用して行う民間就職試験（専門・常識適性）、公務員試験対策の集中講座を開催します。			
	個別就職指導 キャリアサポート課、学科の就職委員および研修担当教員が連携し、個々に応じた就職相談・指導を実施します。				
	合同企業説明会・個別面談 未内定者に対し、学内で合同企業説明会を開催します。また、就職活動促進のために個別面談を実施します。				

中原大学（台湾）への短期留学派遣



いしい さとし
石井 敏
建築学科 教授

去る10月3日（木）、学生3名（建築学科4年生）を引率して中原大学（台湾）を訪問しました。学生たちは11月末までの2か月間、キャンパス内の寮で暮らし、現地の学生とともに卒業設計の指導を受けながら学習に励みました。学生から送られてきた日々の様子を見ると（facebook「台湾留学2013」で公開中）、たくさんの友人をつくり、楽しそうに生活している様子が伝わってきます。中原大学への派遣も5年目を迎えました。毎年途切れることなく留学希望者が出て、派遣につながっています。中原大学は、気候・治安もよく、安心して生活と学習ができる環境が整っています。建築学科では今後も積極的に留学を支援し、さらなる交流の発展につなげて行きたいと考えています。



中原大学の学生主催による歓迎会（10月4日（金））



さまざまなものを得た 2か月間

さかた ようこ
坂田 曜子
建築学科 4年

2か月間の留学生活はあっという間で、振り返ってみると素晴らしい経験ばかりです。台湾は日本と異なる文化、生活様式ですがとても住みやすい国だと感じました。加えて留学期間中に日本語を話せる方と出会って歴史を知り、あらためて台湾の人の温かさを身をもって知ることができました。

その優しさに何度も救われた台湾の方、先生、友人をはじめさまざまな方に感謝の気持ちを伝えたいです。2か月間という短い期間ですが、本当に充実した日々であり、台湾での経験は一生忘れることはなく、とても印象深いものとなりました。



2か月間の 台湾留学

おおた かずのぶ
太田 和伸
建築学科 4年

今回の留学で私は、はじめての台湾、そしてはじめての一人での生活を体験しました。

最初はとても楽しみな期待と、はじめての海外での長期滞在のため不安も交錯していましたが、台湾の先生や学生の皆さま、そしていろいろな場所で出会った人々は、日本人である私に優しく接してくれ、とても充実した生活を過ごすことができました。

中原大学建築学科の学生は、設計の授業では真面目で情熱的で、特にエスキスはとても刺激を受けました。

今回の短期留学は、私にはとても貴重な経験であり、学業だけではなく多くのことを学べた2か月間の留学でした。



台湾での留学体験を 振り返って

さとう すみれ
佐藤 すみれ
建築学科 4年

台湾に行く前は、2か月間の生活に対して楽しみな気持ちと少し不安もありました。

台湾での生活を振り返ってみると、多くの方に助けてもらいながらすごく充実した生活になったと感じています。設計の授業では、中原大学の学生さんからたくさんの刺激をもらいました。また、台湾での空間体験を参考に卒業設計にも活かしたいと考えています。友人になった人々のおかげで、見学した台湾の建築物や文化などを教えてもらい貴重な体験をすることができました。人との出会い、新しい経験、今回の留学で身につけたことすべてを大切にしていきたいと思います。



歓迎会会場の台湾家庭料理店の前にて



中原大学学生との交流



いなむら はじめ
稲村 肇
都市マネジメント学科 教授

アジア交通学会 (EASTS) に参加して

台湾の台北で開催されたアジア交通学会は1994年に我々、日本の土木計画学分野の研究者がアジアの10カ国の学者・研究者・行政関係者に呼び掛けて結成した国際学会です。

1995年から奇数年開催で今年が第10回となります。会議の参加者は約1,000名、口頭発表論文は401編、ポスター発表は99編と年々発展してきています。

私は災害復興のセッションに参加し、東日本大震災の復興について発表しました。災害復興に各国の研究者の関心は高く、多くの参加者と活発な議論がなされました。

この発表論文は都市マネジメント学科の稲村研究室の2名の学生が卒業論文で研究した内容が元になっています。学生は参加できませんでしたが論文の著者として連名になっています。



技術見学（地下鉄トンネル）



論文発表の聴衆



まつお かがり
松生 香里
共通教育センター 人間科学部 講師

International Society of Exercise Immunologyに参加して

9月上旬、オーストラリア・ニューカッスルで行われたInternational Society of Exercise and Immunologyに参加しました。前任校でメルボルンに派遣留学させていただいた経験もあり、シドニー空港到着とともに、とても懐かしい気持ちになりました。

学会中に東京オリンピックが決定したといううれしいニュースを耳にし、晴れやかな気分で臨みました。

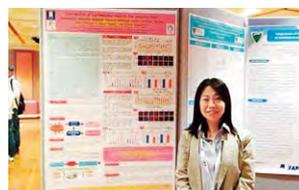
「運動免疫学：アスリートのコンディショニング」が私の専門で、母校の東北大学大学院の実験室で研究を進めています。7年後の東京オリンピックに向けて、アスリートのコンディショニング研究にも精を出したいと思っています。

今回は動物実験レベルでの学会発表を行ってきましたが、先々はアスリートを対象にしたスポーツ現場に活かせる研究に発展して行く予定です。

国外の学会に参加し、さまざまな国の研究者とお互いの研究について話合う機会は、とてもリフレッシュした気分になります。

ふと、イギリスの物理学者、アイザック・ニュートンが「りんごの木からりんごが落ちるのを見て、万有引力の法則を思いついた」という話を思い出しました。研究者には、このぐらゐの時間的・精神的な余裕を持たなければ、優れた教育・研究は困難なのかもしれない、と思いつつ帰国便に乗りました。

教育活動にも研究を活かせるよう、日々精進したいと思います。



ポスター発表



学会最終日、恩師や他大学の先生とともに記念撮影。



本学岩崎俊一理事長、「2014年度ベンジャミン・フランクリン・メダル（米国）」の受賞決定

本学岩崎俊一理事長が、世界で最も古く最も権威のある米国の総合的な科学賞のひとつである「2014年度ベンジャミン・フランクリン・メダル（電子工学部門）」を受賞することが、2013年11月に発表されました。授与理由は「コンピュータの記録媒体の記憶容量の増大をもたらした垂直磁気記録システムの開発と実用化」です。

授賞式とプレゼンテーションセレモニーは、2014年4月21日（月）から4日間にわたり、フランクリン協会のある米国ペンシルベニア州フィラデルフィアで盛大に執り行われます。

【ベンジャミン・フランクリン・メダル】

世界で最も古く、最も権威のある総合的な科学賞のひとつで、米国フランクリン協会から個人に贈られる科学技術賞です。この賞は企業の寄附金によってサポートされており、科学、工学、ビジネスリーダーシップなど各部門の優れた業績を称えることで科学技術の著しい発展に寄与しています。

1824年創設以来約200年にわたり、科学、工学、技術、ビジネスの発明者や起業家など、各界に多大な貢献をした男女数千人にその名誉を授与してきました。その受賞者一人ひとりがベンジャミン・フランクリンの遺産を継承する人々として称えられます。過去の受賞者には、トーマス・エジソン（1899）、キュリー夫妻（1909）、グラハム・ベル（1912）、アルバート・アインシュタイン（1935）、スティーヴン・ホーキング（1981）、ビル・ゲイツ（2010）らの著名人が名を連ねています。 ※フランクリン協会サイトより訳 <http://www2.fi.edu/>

復興大学地域復興支援ワンストップサービス事業 (担当大学:東北工業大学) 「復興大学地域復興支援シンポジウム」の開催

復興大学ワンストップサービス仙台センターでは2013年11月14日(木)、復興大学地域復興支援シンポジウム「再生から発展にむけて」を開催いたしました。震災から2年8か月が経過し、被災地にも多様な課題が数多く出てきております。被災により生じた課題はもちろん、被災前からの課題がこの震災で如実に表れ、我々に深い問題として投げかけられています。このような中で、今回は「再生から発展」に向けての具体的な活動や今後の方向性について、講演(基調講演:東北大学大学院環境科学研究科教授石田秀輝氏)をいただくとともに、双方向的な視点で意見交換を行うことができました。また、課題解決に向けて立ち上がった、復興支援プロジェクトの事例として、本学工学部都市マネジメント学科小出英夫学科長から「構造物(橋梁)点検ロボットによる損傷劣化診断システムの開発」について、ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科 菊地良覚学科長からは「雄勝石産業の復活を核とした生産とくらしの再生」が、それぞれ紹介されました。今回

のシンポジウムでは、学術機関として復興支援に果たすべき役割を再確認し、この地よりブレークスルーを起こす原動力を学ぶことができたシンポジウムとなりました。



パネルディスカッションおよび会場風景



宮城光信学長の開会挨拶



都市マネジメント学科長 小出英夫教授



安全安心生活デザイン学科長 菊地良覚教授

第1回 復興未来カフェの開催

「復興未来カフェ」は、復興支援に尽力している企業人をお招きし、参集の皆さまと交流・懇談の場を通じて、復興を担う未来の人材を育むことを目的に開催するものです。平成25年11月25日(月)、アエル7階復興大学講義室にて、「復興現場を駆けめぐる2年8か月」をテーマに「第1回復興未来カフェ」を開催しました。講師は株式会社NTTドコモ(東北復興新生支援室)

馬場勝己氏と佐々木亮氏で、復興と企業の役割や若手社員は何をすべきかなどについてお話をいただきました。当日は、本学の学生主体に予定定員の参加者があり、和やかな雰囲気の中でさまざまな意見交換もありました。参加した学生からは「学生と社会人の視点の違いを感じ、多いに刺激を受けた」などの感想も発表されました。



講師や学生によるさまざまな意見交換

ほのぼのにぎわった 「第8回秋の八木山フェスタ2013」

本学の八木山キャンパス、八木山動物公園、八木山ベニランドを会場に開催された、11月3日(日)文化の日恒例の「秋の八木山フェスタ」。今年は穏やかな天候に恵まれ、どの会場もたくさんの家族連れでにぎわいました。

八木山動物公園で行われた開会式とポスターコンクールの表彰式には、主催者側代表が全員動物のかぶりもので列席。本学の宮城光信学長もバンドになって受賞者に表彰状と記念品を授与いたしました。また、開会式に初参加した本学チアリーダーも式典を盛り上げました。

本学9号館のtohtech FORUMでは例年通りの吹奏楽演奏やコーラスに加え、本学O.B.らによるジャズライブもあり、近代的な9号館にマッチしたセンシティブな雰囲気醸成を醸し出していました。

一方、野外の芝生広場では本学チアリーダー、仙台南高校ダンス部、八木山地区のグループによる雀踊りや太極拳が披露され、来場者はほのぼのとしたひと時を満喫しました。

ペーパークラフトやブーメランづくり、レザークラフトなどのものづくりは今年も好評で、中でも人気は本学建築学科学生有志colorsによる「お菓子の家づくり」。いずれも“子どもにやさしい”八木山フェスタ本来の姿を象徴するかのよう、たくさんのご家族の来場者や出演者を含め、1,000名以上の方にお楽しみいただきました。



「みやぎサイエンスフェスタ」の 模範発表で高評価!

2013年11月16日(土)、宮城県仙台第三高等学校を会場に開催された「第2回みやぎサイエンスフェスタ」のポスターセッションで、下記の本学学生4名が発表。いずれも、聴講した多くの中高生や教員の興味を引きました。中でも、試作の椅子を展示したデザイン工学専攻 博士(前期)課程1年 及川絵理さんの発表は、聴講者が気に入ったポスターに貼る“グッジョブ!”シールの貼付数が大学の展示では最多。宮城県教育委員会などの関係者も驚くほどの高評価をいただきました。

□本学のポスターセッション模範発表者

- (1) 「木の弾性を生かした新しい椅子の提案」
ライフデザイン学専攻 デザイン工学専攻 博士(前期)課程1年 及川 絵理
- (2) 「高塩分濃度浸出水を処理する人工湿地におけるヨシの生育特性と水収支について」
工学研究科 環境情報工学専攻 博士(前期)課程2年 岡沼 美香
- (3) 「ノア画像に対するコントラストを用いた海水検出方法の開発」
工学研究科 通信工学専攻 博士(前期)課程2年 松本 旭
- (4) 「4自由度可動型レーザーレンジファインダーを搭載した不平整移動ロボットによる斜面形状の測定」
工学研究科 電子工学専攻 博士(前期)課程2年 吉田 敏徳



◆フィンランドに関するシンポジウムの開催

いしい さとし
石井 敏 建築学科 教授

シンポジウム「フィンランドのデザイン・教育・福祉の今 日本社会へのヒントと示唆」が11月2日(土)、本学八木山キャンパスにて開催されました。関東・大阪からも含め、約150名の参加者で会場は埋まりました。前半はフィンランドの暮らし、デザイン(クリエイティブデザイン学科梅田弘樹准教授)、建築(石井)に関しての講演、後半はフィンランドから招いた講師2名によるフィンランドの教育と福祉の理念と実践についての講演がありました。会場からの質問も活発で、フィンランド人の暮らしや価値観、その中で北欧型社会保障制度などについて議論しました。「ロシアを挟んで隣国」のことを知り、考えるよい機会となりました。



多数の参加者で埋まった会場(八木山キャンパス9号館 tohtech MEMORIAL HALL)

◆「仙台市若林区地下鉄東西線沿線魅力☆探検隊」

もりた てつお
森田 哲夫 都市マネジメント学科 教授
しのはら りょうた
篠原 良太 クリエイティブデザイン学科 准教授

平成27年度の仙台地下鉄東西線開業は、沿線の魅力あるまちづくりの好機です。仙台市若林区の集客・交流人口の増加を目的とした「まち歩きマップ」を制作するワークショップが終盤を迎えました。ワークショップは昨年7月から7回開催され、都市マネジメント学科とクリエイティブデザイン学科の学生が地域の皆さんと協力して、駅が予定されている「新寺」「連坊」「薬師堂」界隈の地域情報を取材し、マップの企画・デザインをしています。できあがったマップは、3月から市内各所で配布されます。

このワークショップは、本学と仙台市との「まちづくりにおける連携・協力に関する協定」による第1号プロジェクトです。



地域情報の取材結果の発表(仙台市若林区中央市民センター)

◆「みやぎ地場産品開発流通研究会」
秋保木の家にて『みやぎの手しごと展 vol.2』開催

いとう みゆき
伊藤 美由紀 安全安心生活デザイン学科 准教授

「みやぎ地場産品開発流通研究会」は地場産業の発展を目的に平成2年に発足し、地場産業のデザインや流通に関する情報交換や共同開発を行っています。現在宮城県内の5か所の工芸産地(岩出山竹細工・鳴子漆器・津山木工品・雄勝硯・手しごと秋保)や行政機関、そして本学科で構成されています。

この度、秋保木の家にて平成25年3月に実施した展示会に続いて、この11月1日(金)~12月3日(火)まで、「歴史から現代のくらしと未来が見える」をテーマに行いました。期間は紅葉の見頃とも重なり、工人による体験コーナーなどもあり、多くの方にご来場いただきました。

今後も各産地間で連携し、みやぎの「技」と「心」を伝承していきたいと考えます。



「木の家 秋保手しごと館」展示会

◆「第7回 東北の建築を描く展」開催される

建築学科

せんだいメディアテークを会場に「第7回東北の建築を描く展」が去る10月18日(金)から10月23日(水)まで開催されました。

今年の出展作品は、香川県三豊市をはじめ全国から397作品の応募があり、審査の結果201作品が入賞・入選となりました。

入賞作品は38作品で、10月19日(土)の午後1時から宮城光信学長列席の下に表彰式が行われ、入賞者一人ひとりに賞状と賞金・賞品が授与されました。会期中の来観者数は過去最高の1,500名を超え、本展が芸術の秋を彩る仙台の展覧会として定着しつつあることがうかがわれます。



第7回 東北の建築を描く展 表彰式

◆エコプロダクツ東北 2013 への出展

環境エネルギー学科

エコプロダクツ東北2013最終日の10月26日(土)に、環境にやさしく自然エネルギーで充電可能な乗り物「セグウェイ」試乗会と「太陽光エネルギーの活用」を、NPO環境会議所東北からの要請と、仙台市環境局E-Actionとの連携で夢メッセみやぎにて出展しました。

学生チームにとっては、工大祭やオープンキャンパスで培った企画力を発揮する大きなチャンスの場において、万全の準備で500人を超す方に安全に試乗いただくことができました。

また、伊達武将隊のブース入りや地元企業との交流など、楽しく充実した一日を体験することができました。



エコプロダクツ環境エネルギー学科出展チーム
支倉常長武将のセグウェイ試乗

◆石巻好文館高校で出前授業

入試広報課

石巻好文館高校からの依頼を受け、本学から5名の講師を派遣し11月14日(木)に同高校で1、2年生を対象に出前授業を行いました。目的は、同高校の総合学習「甲斐ある人といわれたいむ」の時間に、さまざまな分野の大学教授の講師から専門の学問について講義を受け、生徒の知識を深め今後の進路目標の参考にするというものです。

本学からの派遣講師とテーマは、情報通信工学科 中川朋子教授「宇宙空間を吹く風」、情報通信工学科 鈴木健一准教授「コンピュータのしくみとプログラム」、建築学科 大沼正昭教授「地震と建築技術の進化」、環境エネルギー学科 内田美穂准教授「化学物質の環境リスク;リスクの大きさの考え方」、経営コミュニケーション学科 金井辰郎教授「幸せの経済学 どうすれば幸せになれるか」の5講座です。生徒は希望の講座を選択し、熱心にメモを取りながら聴講していました。



経営コミュニケーション学科 金井辰郎教授の講義

教員ピックアップ

PROFILE

安全安心生活デザイン学科

おおめま まさひろ
大沼 正寛 准教授



安全安心生活デザイン学科

まきち りょうかく
菊地 良覺 教授 ご紹介



地域の里海、里山をこよなく愛しその再生を目指す

大沼正寛先生は2年前に本学科に着任。専門は建築設計・地域計画・建築歴史地理。これらを「環境造形」と総称し、地域が固有の価値を深めていくことを目指していると言います。そのきっかけは、岩手県金ケ崎町城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区の一連のまちなみ保全で、古民家再生に対する「東北建築特別賞」も受賞。震災前から地域遺産とくに茅葺や雄勝天然スレート葺きの民家調査を実施してきたことから、「雄勝石産業の復活を核とした生産とくらしの再生」プロジェクトの中心メンバーとなり、調査のほか生産拠点再生の計画策定などに奮闘中です。また、それらの社会活動が評価され、本学優秀教員の一人として表彰されています。妻と3人の息子を愛する父は、今日もフィールドを駆け回っています。

topics



大規模地震に備え避難訓練

今後も起こりうる大規模地震に備えるため、自衛消防隊と減災行動・体制検討WGが共同し、11月22日(金)午後には避難訓練を行い、両キャンパス合わせて1,116名の学生と教職員が参加しました。

今回の避難訓練では、宮城県沖地震や兵庫県南部地震など9種類の大地震が再現できる地震体験車「ぐらら」の体験を長町キャンパスで行ったほか、太白消防署より防火の心構えなどを話していただき訓練を終えました。

また、11月29日(金)には、全国一斉に内閣府と気象庁による「緊急地震速報を活用した訓練」が行われ、本学も訓練に参加いたしました。



ライフデザイン学部の学生が(株)東北イノアック 若柳工場を見学

「産学連携授業」の一環として、ライフデザイン学部の学生約70名が11月25日(月)、宮城県北部にある(株)東北イノアック 若柳工場の見学を行いました。

学生たちは説明を受けた後、グループごとに工場内を見学。ウレタンの発泡体験や製造工程について質疑応答。材料や製造の仕組みを知り、社員の方の熱意にも直接ふれることで、デザインへの理解度と意欲高まる有意義な体験になりました。

この授業は復興大学と連携したもので、最終段階では「防災減災市場のデザインマーケティング」と題し、震災以降の危機管理意識の高まりにあわせたデザインのプレゼンテーションを行う予定です。

平成26年度東日本大震災被災者特別支援(奨学金)のお知らせ

東日本大震災被災者特別支援により、被災し修学困難となった学生に対する継続支援(平成26年度まで)として、親(家計維持者)が被災した学部学生・大学院生を対象に奨学金を支給します。

- 対象／災害救助法の適用地域に居住する親(家計維持者)が被災し、次のいずれかの要件を満たす者。
家計維持者が死亡または行方不明／自宅住居家屋が全壊(流失)または大規模半壊／自宅家屋が福島原発事故による立入禁止区域に指定
※自宅住居家屋は家計維持者または同居する家族所有の者に限る

- 申請書類／申請書(本学所定)／奨学金振込先口座通帳の写し／被災状況などの証明書／持家を証明する書類／死亡診断書など
- 申請期間／平成26年6月30日(月)まで
(申込案内などの詳細は、前期オリエンテーション時に配布します。)
- お問い合わせ／八木山キャンパス学生課 または 長町キャンパス事務室